

世界遺産へ向けて

平泉寺世界遺産講演会

3月6日(日)に開催

世界遺産、平泉寺の史跡整備を語る

下記の日時で世界遺産講演会を開催します。今回は文化庁の市原富士夫調査官をお招きし、世界遺産登録や史跡整備についてお話をいただく予定です。

市原調査官は、パリのユネスコ本部に勤務経験があり、石見銀山などの世界遺産登録にも関わられました。また、文化庁では平泉寺の史跡整備を担当されている方です。

ぜひともこの機会にご参加下さい。

●日時：平成23年3月6日(日)

午後1時30分から

●場所：勝山市教育会館 ホール

●講演

演題：「平泉寺の史跡整備と世界遺産登録について(仮題)」

講師：市原富士夫氏(文化庁記念物課調査官)

●対談 市原富士夫氏

吉岡泰英氏(一乗谷朝倉氏遺跡資料館)

ほっぷく

平泉寺こぼれ話 ~第22話~

平泉寺からの出土品です。これは何でしょうか？



ヒント

しゃくだにいし

- ①. 笏谷石という柔らかい石を加工して作られている。
- ②. 大きさは、長さが15cm程度である。
- ③. 動物の脚のようなものがある。
- ④. 鎮守宮跡から出土している。

答えは最下段↓

越前禅定道探訪記 その9

七難の岩屋？

和佐盛平には多くの巨岩が点在するが、その中でも林道沿いの巨岩は、雨宿りができそうな大きな空間をもっている(写真)。江戸時代にかかれた『続白山紀行』には、「早内森に七難の窟と呼ばれるところがあり、地元の人には尼が岩屋と言っている。案内がなければ知ることは難しい」とある。これまで、七難の岩屋はどこにあるのか不明であったが、どうもこの写真の巨岩の可能性が高いと言えそうだ。

七難の岩屋の伝承は、次のようなものである。ある時、白山に籠もった泰澄を慕い、年老いた母が岩屋まで登ってきた。女人禁制を破ろうとする母に、突然、風雨や落雷がおそい、雨宿りをしていた岩を真っ二つにした。泰澄は母のもとを訪れ、これより先に進むことは許されないと諭したという。



答え 狛犬 鎮守の宮に安置されていたと考えられます。

国史跡平泉寺の整備情報誌

平泉寺かわら版

No. 28 (2011年1月号)

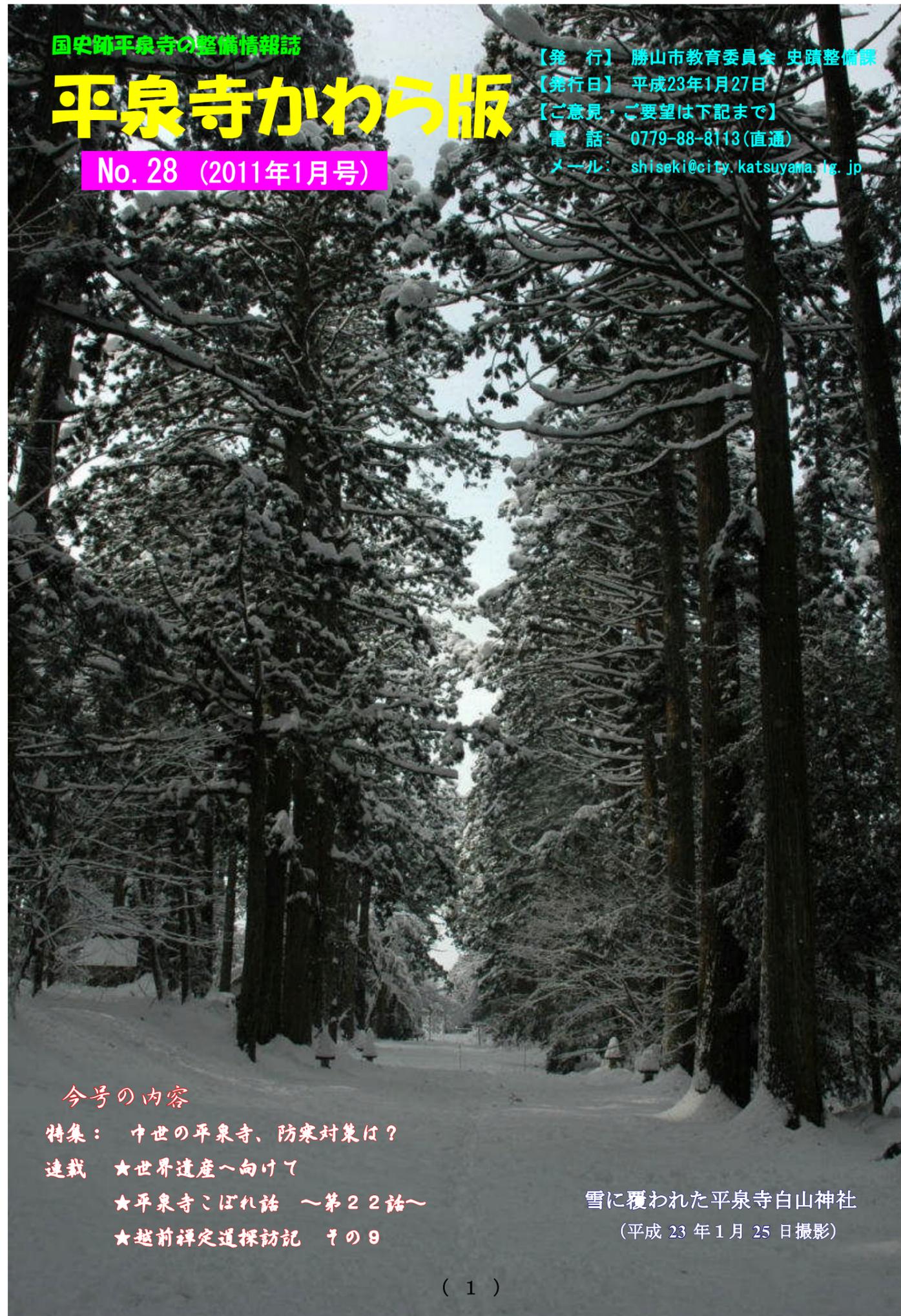
【発行】 勝山市教育委員会 史跡整備課

【発行日】 平成23年1月27日

【ご意見・ご要望は下記まで】

電話: 0779-88-8113(直通)

メール: shiseki@city.katsuyama.lg.jp



今号の内容

特集: 中世の平泉寺、防寒対策は？

連載 ★世界遺産へ向けて

★平泉寺こぼれ話 ~第22話~

★越前禅定道探訪記 その9

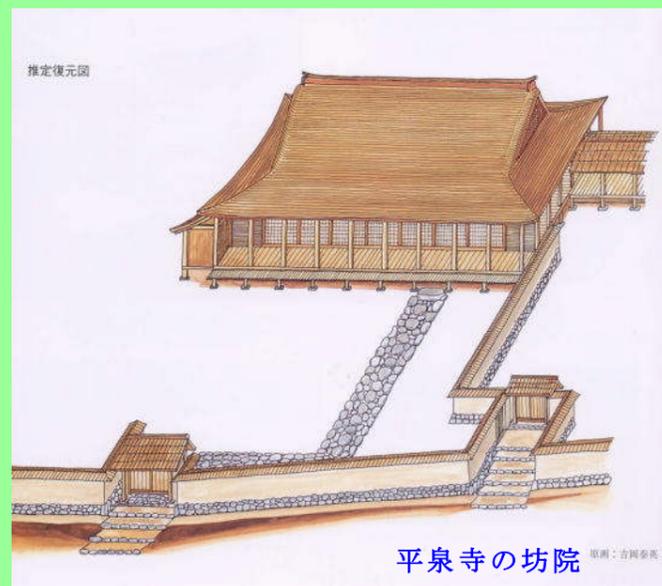
雪に覆われた平泉寺白山神社

(平成23年1月25日撮影)

特集 中世の平泉寺、防寒対策は？

今年は、新年早々大雪に見舞われました。平泉寺では1mを越える雪が積もっています。おそらく中世の時代も多く雪が降ったことでしょう。

では、中世の平泉寺では、どのように寒さをしのいでいたのでしょうか。今回は、発掘調査から見えてくる平泉寺での防寒対策について考えてみました。



平泉寺の坊院

中世の平泉寺の除雪は？

現代のように、除雪機械や除雪用具が発達していなかった中世、平泉寺ではどのような除雪を行っていたのでしょうか。

当時、平泉寺には左の図のような坊院（僧侶の住居）が数多く建ち並び、多くの人々が生活していたと考えられます。そこでは、雪とのいろいろな戦いがあったことでしょう。

しかしながら、除雪用具等は発掘されておらず、その実態は全く不明です。建物などに積もった雪は、おそらく木製「ばんば」などで落としていたことでしょう。

道路の除雪については、江戸時代の平泉寺の記録に「道踏」という言葉が出てきますので、中世においても除雪ではなく、雪を踏み固めて道としていたのかもしれませんが。

中世の防寒対策は？

～ゾクゾク発掘される暖房具類～

発掘調査では、屋敷内から数多くの暖房具類の破片が見つかっています。その代表的なものが左の写真のような火鉢です。火鉢は持ち運びができるため、手軽な暖房具として多く利用されたようです。

火鉢の外面には、多くの場合、縁起の良い文様がスタンプされています。下の写真の火鉢には、菊花や鳥（雁金）に似た文様が連続して押されています。



鳥（雁金）の文様？



菊花の文様



火鉢の破片



石製行火（バンドコ）

寝床の暖房は？

平泉寺では笏谷石を削って作ったバンドコとよばれる行火が比較的多く出土しています。これは、寝るときに布団の中に入れる寝床用の暖房具と考えられます。

ちなみに一昔前まで、瓦製のバンドコが使われていましたが、ご存知でしょうか。

その他の暖房具は？

風炉は、茶の湯の席上で、茶釜をのせて湯をわかすためのものです。平泉寺では、石をくりぬいたものや、土を焼いて作ったものなどが出土しております。風炉の中には、火鉢と区別しにくいものもあり、暖房具としても使われたものもあったのでしょうか。



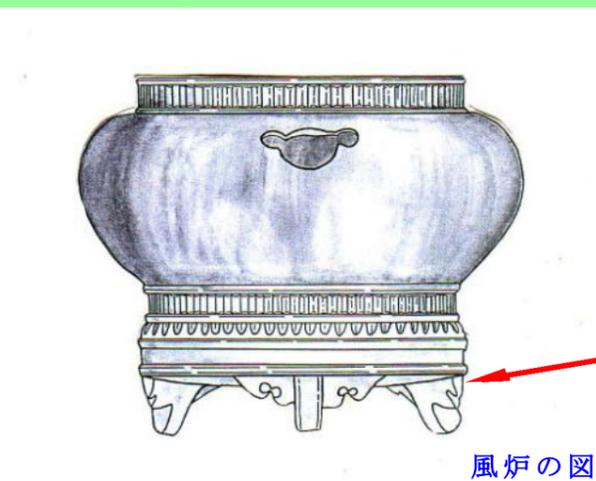
石製風炉

鍋を転用した暖房具とは？

平泉寺の発掘調査では、割れた石鍋をカイロ（温石）として再利用したと思われるものが出土しています。

最下段の右下の写真は、長崎県産と考えられる滑石を加工した石鍋の破片です。石鍋は当時、大変高価なものだったので、割れても次のものに再利用したのでしょうか。

左下の破片には穴が空けられており、熱した石を持ち上げるためのものと考えられています。滑石は一度あたためると蓄熱効果が高いため、破片を布などにくるんで懐中に入れるカイロとして再利用されていたようです。



風炉の図



石鍋の図



温石に転用

石鍋の破片